

想像を絶する大草原で見るものは



乾いた大地に動物いっぱい

モンゴル派 アフリカ派 全面対決

次期海外旅行候補問題で、NODが二つに分裂している。先日、挙手による投票では、7：3でアフリカ派が勝ったようだ。納得がいかないモンゴル派は「次はリベートで対決だ！」と意気込んでいる。いまのところ、両者に歩み寄る気配は全くないが、アフリカとモンゴルは両国とも日本にはなじみが薄いので、まずお互いの国を知ってから結論をだしても遅くないのでは...今回は両者を徹底的にリサーチしてみよう。(徹底的ってほどじゃないけど・・・)

モンゴル共和国

このアジア大陸の高原の国、我々モンゴロイドの故郷の国は、日本とは距離的には近いにもかかわらず、最近まできわめて遠い国のひとつだった。1989年まではモンゴル人民共和国は、中国とロシアにはさまれた国で、海拔1,000から1,500メートルのモンゴル高原にあり、国の広さは日本の国土の4倍強である。しかし、人口は23万人(1999年国連統計より)と、私のすんでいる静岡県の人口よりも少なく、そのうち60万人は首都のウランバートルにすんでいる。

産業は牛や馬、羊などの放牧と、その肉や革、羊毛の加工、特にカシミアなどの繊維製品の生産、それに銅精鉱などの鉱物資源の生産といったものが主体である。

広大なモンゴル・草原ゴビの中に立つ。遠くまで見渡せて、空気は乾いて心地よく、心が解き放たれるようで、とてもいい気持ちです。ゲーです。この乾燥して不毛な土地にも花は咲き、虫や小さな動物が隠れています。植物はどれも膝下くらいまでの高さしかないけれど、しぶとく岩の間から葉を伸ばしています。

---以上 ホームページから転載---

よいこの
プロレス教室
ヤシの実割り



南アフリカ共和国

アフリカ大陸の南端に位置する南アフリカ共和国。この国のキャッチフレーズ "There is the world in this country" (一つの国に世界がある) が示すとおり、ここにはヨーロッパ風の建物がある反面、想像を超える大自然が広がり、野生動物の宝庫でもあります。加えてワインの美味しさは本場のヨーロッパ以上! インフラや交通手段は欧米に比べて整備されていないため、厳しい渡航になるでしょうが、きっと新しい発見があるはずですよ。

ところで、アフリカといえば、野生動物たちとの出会いが大きな楽しみです。でも、ガイドさんの言葉によると、結構出会えない場合も多いとか...

やはり、ヤラセでない、まったくの自然ですから、それも仕方がないと。

サファリツアーの途中で、「マサイ族の村」なるところに立ち寄りました。ガイドブックに出ているところの「観光マサイ」って奴ですダンスとか見せてくれたり(借CMで見た奴)、家の中見せてくれたり、と貴重な体験なのは確かだったのですが、ダンスの後で、「俺の矢を買ってくれ」とか、チップよこせとか、最後には、あんまり気持ちの良い状況ではなかったのです。

---以上 ホームページから転載---